

学校便り

やさか

合い言葉「超升先輩」



2025年6月23日
中津川市立坂下中学校
「自立・共生・創造」
生徒数133人

また会える日を！

「みなさんの合唱を、毎日ここで流したいぐらいです。」

3年生の修学旅行で訪れた、「東京大空襲・戦災資料センター」で、講話を聴かせていただいたお礼に、「HEIWA の鐘」の合唱を聞いていただいた後のセンターの方の言葉です。自ら空襲に遭われた体験などから、世界の平和を希求し活動し続ける方々の心に、生徒の合唱が届いた一コマでした。

昨年と同じように、西尾静子さんにお話を聞かせていただきました。(以下、講話の概要)

昭和20年、東京で大空襲に遭いました。近くの防空壕に逃げようとしたのですが、目の前で満員となり、やむなく別の壕へと向かいました。その日落合（中津川市）から遊びに来ていた、いとこのお姉さんとはそこで離ればなれになってしまいました。

避難した壕は、ひざまで水につかっていて、まだ3月の寒さに多くの人が苦しんでいました。6才だった私は母に背負われ何時間も過ごしました。壕の外から、「開けてくれ、入れてくれ」という声がたくさん聞こえました。

外の物音がおさまり外へ出ました。東京の景色は一変し、何もかもが灰になっていました。何とか家のあった場所までたどり着き、いとこを待ち続けました。しかし、もう会うことはできませんでした。

父から東京を離れた方がいいと言われ、両親の実家のあった中津川市坂下町へ避難しました。心的にかなりの後遺症をもっていました。小学校へ通い、豊かで穏やかな自然に心を癒やされました。川上川で泳ぎ、矢渕橋から飛び込んで遊んだこともありました。友だちや先生から、「空襲大変だったね。大丈夫？」と声をかけられることはありませんでした。なぜなら、東京で大空襲があったことは誰も知らなかったからです。それも私にとっては幸いでした。7年間を坂下小中学校に通い、良き友達や先生と出会い、授業では海外の事象に興味をもち、坂下の地のものを食べて過ごしました。

戦争の体験、坂下で過ごした日々から、西尾さんは生命科学研究の道に進まれたそうです。講話の後、「みなさんの合唱を聴いて涙が・・・」と話してくださいました。「また合唱祭にみなさんの合唱を聴くことを楽しみにしています。」と話してくださいました。昨年度の合唱祭には、3年生の思いから西尾さんをご招待しました。修学旅行で坂下に縁のある方に東京でお会いし、その縁を大事にしたものです。西尾さんが、「暑い中、生徒さんが話を真剣に聞いてくれて本当にうれしかったです。見学中もたくさん質問したり話しかけたりしてくれてうれしかったです。」と話してくださいました。センターの感想ノートに何人かの子が感想やお礼の言葉を残していた姿がとても印象的でした。出会いを大事にすることができた生徒の姿を頼もしく感じました。



<保護者の皆様～お礼～>

2年生の若狭研修、3年生の修学旅行においては、準備や送迎等にご協力いただき誠にありがとうございました。おかげ様で無事研修旅行に行ってくることができました。気候的にはたいへん暑い日々でしたが、生徒の自主的な動きや行動力が生きて、驚くほど順調に研修が進みました。きっと大人になっても覚えている研修旅行になったと思います。さてお子さんは、ご家庭でたくさんお土産話をしたでしょうか？

校長 久野 智治